

第 47 回経営協議会議事録

1. 日 時 平成 28 年 1 月 26 日（火） 14 時 00 分～15 時 30 分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3 階 松の間
3. 出席者 中村（議長）、伊藤、猿田、永井、御室、村本、鈴木、前田、晝馬、今野の各委員
陪席者 小出理事（教育・国際交流担当）・副学長、蓑島副学長（研究担当）、西山監事、津田監事

4. 議事録の確認

第 46 回経営協議会議事録（案）を原案どおり確認した。

5. 議 事

(1) 第 3 期中期目標についての意見（原案）について

鈴木理事から、第 3 期中期目標についての意見（原案）について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2) 規則の改正等について

総務課長から、経営協議会規則の改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 報告事項

①平成 28 年度概算要求の内示について

前田理事から、平成 28 年度概算要求の内示及び事業内容について報告があった。

②アメニティー等改善マスタープランについて

前田理事から、アメニティー等改善マスタープランについて報告があった。

③病児・病後児保育室の設置について

鈴木理事から、病児・病後児保育室の設置について報告があった。

④第 2 期中期目標期間における実績について

学長から、第 2 期中期目標期間における教育・研究・診療分野の実績について、報告があった。

⑤新専門医制度について

今野副学長から、新専門医制度の概要及び本学の対応状況について、報告があった。

⑥新体制について

中村学長から、平成 28 年度からの新体制について、報告があった。

次回の経営協議会について（平成 28 年 3 月 25 日（金）開催予定）

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（１）第３期中期目標についての意見（原案）について

- 看護教育の推進ではどういった取組を行う予定なのか。
- ◆看護教育ではミッションの再定義において、強み・特色とした産業保健等を活かし、地域保健への貢献を計画している。
- 保健師等の資格取得については大学院教育等での取得なのか、基礎教育での取得なのか議論が行われている。浜松医科大学ではどのようにする計画なのか。
- ◆資格取得については、県との調整も必要であり、看護学科内でも様々な意見が出ている。今後も引き続き検討をしていく。
- グローバル化については地方の大学として、思い切った取組をしてはどうか。
- ◆今まで留学等の支援を行っているが、留学者等のその後について、追跡調査を行い、検証をしていく必要があると考えている。
- イノベーションのセンスを持った研究者と在宅医療等のマインドを持った医療者の育成が大切になっていくのではないかと思う。
- ◆中期計画では、詳しい人材育成計画を示す予定である。
- 大学入試センター試験の変革などがあるが、優秀な人材を確保するために、どのような入学試験を行うのか。
- ◆今までの試験区分による追跡調査データがあるため、そのデータを活かし、優秀な人材の確保を目指した、試験制度を構築していく。

報告事項①病児・病後児保育室の設置について

- 今後、支出が増加することを考えると、寄附を募るほか、資産の運用を検討していく必要があるのではないか。
- ファンド等を利用した資産運用は、瞬間的に良い時もあるかもしれないが、長い目で見ると非常に危険だと思う。
- ◆大学運営上、資産運用によってマイナスを出すことは、あってはならないと考えている。そのため、今までと同様に安全な資産運用を行っていく方針である。また、第３期では基金を創設する計画である。

報告事項④第２期中期目標期間における実績について

- 県外入学者が増加するとどのような問題があるのか。また、静岡県内で働くことを義務付けることは不可能なのか。
- ◆県外出身者は、卒後出身県に戻る傾向が強いため、静岡県の医師増加にあまり繋がらない傾向がある。なお、県内での就職を義務付けることは困難である。
- 研究機器の導入は金額がかかるため、研究機器の更新時は、外部委託などを含めたさまざまな案を検討していただきたい。
- ◆常に外部委託と比較、検討している。現在は外部委託よりきめ細かく、丁寧かつ低料金で運用をしている。今後も外部委託等の状況などを把握し、更新計画を作成していく。